

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人社団 健昌会 ぐるーぷほーむ新里油木
(ユニット名)	喜々
所在地 (県・市町村名)	長崎県長崎市江里町7番21号
記入者名 (管理者)	灘 香織
記入日	平成 21 年 2 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		ホーム自体の理念に加えて、職員一人一人が自分の介護理念を考え、理念に基いたケアを心掛けています。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	当ホームの理念と共に各自其々が掲げた理念を基にケアに取り組んでいます。また、一日を振り返る為のノートを作成し、取り組んでいます。また、一日の終わりに自分を見つめ直す習慣が出来てきています。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	今後も運営推進会議や地域活動を通して地域の方々に理念を理解して頂けるように取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	ぐるーぷほーむのご入居者、職員の事を知っていただき、気軽に声を掛け合ったり、ホームへお話をしに来てもらえるような場所でありたいと願っています。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後も運営推進会議や広報誌を通じて地域行事や活動予定の情報を共有し、可能な限り地域の一員として参加や協力をさせて頂きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方に向けた健康教室をグループ内事業所と開催しています。また、近所の認知症高齢者のご家族へ何かあったら相談して下さいと伝えてあり、実際に何度か相談がありました。	○	健康教室など地域の方々の意見を聴きながら続けていきたい。また自分達で力になれる事はないか呼びかけていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員其々が自己評価の実施やタイムスケジュールを作成する事で自分がどのような取り組みをしてきたか振り返りが出来る事を説明し、また前回の評価で指摘いただいたことを踏まえて改善策を検討し、質の向上に努めています。		ご指摘を頂いたことを実践の場で活用しています。より良いものを目指して、改善策の検討に努めています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者の状況やサービスの実際、状況、活動内容について報告、話し合いを行ない、また参加されていない他のご入居者やご家族、地域の方の意見も聞き家族交流や地域への取り組み等サービスの向上に活かしています。		今後も参加された方々だけでなく、他のご入居者、ご家族、地域の方々の意見も聞き、反映出来る様取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとは会議だけではなく、地域活動やネットワーク活動を通じて質の向上を目指しています。認知症サポーター養成講座の開催等で、市役所とも連絡を取り合っています。		協力出来る事は今後も積極的に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度の勉強会に参加し、要望のあるご入居者には成年後見制度を活用していただいています。		今後も必要と判断できる方へは提案等行なっていくと共に、出来る事は協力させて頂きたいと思います。また、勉強会などにも参加し、知識を深めていきたいと思っています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修に参加し、自分振り返りを行ない、虐待防止に関して見つけ直しています。参加できなかった職員には報告書を見て学んでもらっています。また、身体拘束ゼロ委員会を立ち上げ、内容を充実させる事で虐待防止に努めています。	○	今後も、身体拘束ゼロ推進委員会の委員だけが考えるのではなく、職員一人一人がメンバーなのだという自覚を持ってホーム全体で虐待防止に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>文書を用いながら説明を行ない、その都度質問や疑問に思うことを聞きながら理解を得ています。また、その場で了承していただくのではなく、もう一度ゆっくりと文書を読み直してもらい、後日質問や疑問などないか確認しています。</p>	<p>確実に理解・納得して頂ける様に明瞭端的に説明を行ない、不安の解消に努めたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や不満等なんでも話して頂きたいと伝えており、入居者・職員間でのコミュニケーションを図るようにしています。また、外部の人に意見が表せる機会を設け、それを運営に反映させています。</p>	<p>意見や苦情など出された意見に対し、速やかに対応し、不満の解消に繋げるという姿勢を忘れず、向き合っていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には、日常生活等の状況を報告し、重要な報告等は、電話で連絡しています。また、ホーム便りを2か月に1度発行し近況報告を行なっています。職員の異動がある場合も報告を行ない。新入職員が入った場合は、広報誌等にも紹介するようにしています。</p>	<p>○</p> <p>ホーム便りを作成しお渡しする事であまり面会に来られないご家族に対しても近況報告等お知らせするようにしています。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や家族懇親会で意見を言って頂けるように努めています。また、意見が言い難い場合は、意見箱に投書して頂くように呼びかけています。ホーム便りにも意見・要望を書いて返信して頂けるように用紙を作成し同封しています。</p>	<p>○</p> <p>意見を出す機会が少ないご家族に対して意見を出し易くしていくためにコミュニケーションを密にしていけるよう取り組んでいきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフミーティングを利用して意見や要望を皆で話し合うようにし、細かい事でも意見を言い合いながら信頼関係を築けるよう取り組んでいます。</p>	<p>些細な事でも意見を言い合えるような関係や、機会を作るよう取り組んでいきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>各フロアの対応が出来るようにユニットを越えた勤務を行ない、柔軟に対応できるようにしています。また、その時の状況で勤務時間を変更したり、職員数を増やしたりしています。</p>	<p>今後も、病院受診送迎等で職員が少なくなる時間帯があるので、そういう時はご入居者に迷惑にならない様、職員の連携でカバーできる様に質の向上に努めたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>急な異動にも対応し、ダメージを最小限に抑える事が出来るように日頃からユニットを越えた勤務を入れたり、他フロアのご入居者ともなじみの関係づくりに励んでいます。</p>	<p>今後も急な異動でも対応できるように、他フロアのご入居者の情報や対応を共有し、ご入居者のダメージを最小限に防げるように取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者からは、職員個人個人の能力に合わせた教育計画を行なうように促されています。</p>	○	今後も職員個々の能力にあった研修への参加を促していきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に積極的に参加し、他事業所との交流を図っています。勉強会も開催しています。</p>		今後もより多くの職員にグループホーム連絡協議会の催しに参加を促し、交流を図ったり、様々な取り組みなどの情報交換を行なっていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>業務やご入居者対応で悩みや問題がないか職員に個別に声をかけ話をする機会を設け、希望休など可能な限り応じて少しでもストレスを軽減できる環境作りに取り組んでいます。</p>		これからも個別のカウンセリング等を行なう機会を作り、職員のストレスを少しでも軽減できる環境作りをしていきたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員1人1人の長所を見出し、向上心を持って働けるように努めています。運営者も現場を訪れて職員の努力や勤務状況の把握に努めています。</p>		今後も職員の資格取得に向けて支援を行なっています。今後も一人ひとりの長所を伸ばしていけるような関わりを持つようにしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に面談を行ない、グループホームがどのような所であるか説明し、見学をして頂き、不安に思っている事などをお聞きしています。</p>		ゆっくりと話ができる場所で話をしたり、ご家族が相談し易いような環境づくりをしたり、信頼関係を築いていきたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込み時に詳しい説明を行なっています。些細な事でも相談を受け対応するように努めています。</p>		今後もご家族に気軽に何でも話していただける様な環境や機会をもっともっと増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけではなく、他のサービスの説明も行ない、選択肢を広げています。また、必要時には可能な限り早急に検討し、他事業所を紹介したり、同グループ内の医療介護連携室で幅広い対応を心掛けています。		可能な限り、早急に検討し結果をご入居者やご家族に確実に報告できるようにこれからも取り組んでいきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学し、説明を行ない不安の解消につなげるようにしています。徐々に馴染みながら利用できるよう家族の方、顔なじみの方に頻回に訪問してもらったりして対応するようにしています。		今後も不安になっているご入居者に職員が関わりを持ちながら、他ご入居者に配慮し、グループホームでの生活に馴染んで行けるように取り組んでいきたい。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩である事を忘れず、毎日の生活を共に過ごしていく者同士、助け合い、お互いに補い合いながら喜怒哀楽を共にしていくよう心掛けています。		ご家族やご自分の事で笑ったり、泣いたり、ご入居者の方とよく語り合っって喜怒哀楽を共にしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の入居者に対する思いを受け止め、支えていく為にも、職員も同じ思いで協力していくよう心がけているという事を伝えるようにしています。		今後も家族とスタッフが同じ想いで入居者をケアしていけるような絆や信頼関係を築きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事などご家族への参加を呼びかけ、ご入居者と一緒に過ごせるような機会を作るように取り組んでいます。	○	外出時や行事等への参加を多く呼びかけ、ご入居者とご家族が共に過ごせる機会をもっと作っていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所、知人等把握し、コミュニケーションを計ったりして、習慣や関係が途切れないよう努めています。		本人の馴染みの場所や知人に会いに行く等、継続的に交流ができるような働きを今後もしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の時間にはスタッフも一緒に会話を持つようにしたり、新聞を折ったり洗濯物をたたんだりご入居者同士、関わり合い、お互いの関係を深めていくようにしています。		一人ひとりが孤立しない為にもご入居者同士の関係を把握し、支え合いを引き出し、本人の気持ち・意欲をもっと出せるような場面を作り、その人の個性をうまく活かすようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同法人内の病院へ移られた方に対してはお見舞いに行ったり、スタッフ間で情報交換等共有し継続的なお付き合いを心がけています。		他事業所へ移られた方に広報誌を送ったり行事へ招待したりと関係を断ち切らず出会えた縁を大切に関わっていききたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、悩みがないか等聞いたり、ご家族からの意見・要望を聞き、どのように暮らしていきたいか、把握しケアプランを検討しています。		一人ひとりの思いや悩みを見極め、本音を話せる関係を作るように努め、ご家族からもご本人に対するご意見を話していただけるようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方から話を聴いたり、本人の日常生活の会話の中から、これまでの暮らし方、出来事など知る事ができるように努めています。		随時、知り得た事は記録に残し、センター方式のアセスメント用紙に落とし込んで活用していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	気付いた事は記録に残し、その人の一日の過ごし方・出来る事を把握し、その方らしい生活が出来るように努めています。		随時、気付いた事は記録に残し、センター方式のアセスメント用紙に落とし込んで活用していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族に要望や意向を聞き、それを反映させ介護計画を作成するようにしています。ミーティングや勤務の中で意見を出し合い検討しています。	○	その人らしい生活をしていけるよう利用者本位のポジティブプランの作成を気がかけていきたい。今後ご家族にももっと参加して頂けるような関わりをしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しは行なっています。入退院後やレベルの変化等見られた場合、介護計画を見直し、状況に応じたケアが提供できるよう努めています。		今後も少しの変化にも対応できるよう状態が安定している方に対しても観察を行ないプラン作成に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子と共にエピソードや名言などを具体的かつ簡潔な記述で記録に残すようにしています。		記録確認をスタッフが確実に行ない情報共有に活かしていき、その情報をもとに介護計画の見直しにも活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の状況、その時の要望に応じて通院、送迎等を行ない、医療連携体制の機能を活かし迅速に対応しています。又、他の病院受診の場合も移送サービスを行い定期的に受診していただいています。		今後も医療連携体制の機能を活かし、体調不良の早期発見や対応、入院の場合も早期退院できるように健康面でも柔軟な支援をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議で地域の方々と協力出来る事を検討しています。また、消防署とは連携を図り、支援して頂ける事になっています。		ご本人との地域の接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアの協力を呼びかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の意向で透析前にリハビリをして頂いたり、訪問歯科診療や、美容サービスを利用しています。		今後ご入居者の意向に沿ったサービスがないか模索していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂いたり、地域支援ネットワーク活動や、その他の地域活動で協働しています。		今後も地域包括支援センターと協働して、ご入居者や地域への取り組みを推進していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外の医療機関を希望される場合は、基本原則としてご家族に対応して頂いていますが、受診前後にご家族と情報交換を行ったり、必要時には、かかりつけ医に電話連絡をし、助言を頂いたり情報交換を行ない関係を築けるように取り組んでいます。		個別のかかりつけ医への通院は、家族に依頼している。職員が通院介助した場合は、特に変化がない場合も、家族の方に速やかに報告しています。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関に専門医が入っているため、必要に応じて相談や受診など行なっています。また、専門医から診断や治療、対処法などの指示を受けています。		今後も対処法などの指示を受け、専門医との信頼関係を築きながら、相談に応じて頂けるよう努めたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人施設の看護職とも情報を共有しており、24時間体制で主治医・看護師が対応できる体制を作っています。		全入居者の状況把握のためNS間で情報交換をこまめに行ない、情報共有に努めています。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご入居者が入院した際には、医療機関に情報を提供しています。また、状況の確認や医療機関・ご家族との情報交換や相談を行ない早期退院できるよう取り組んでいます。		今後も入院中もご入居者・ご家族を支えていきたい。また、医療機関・ご家族とも情報交換をしながら、早期退院へ向けた取り組みを続けていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の主治医・看護師と話し合いを持ち、看取りの指針を作成し契約時に説明し同意を得ています。	○	利用者に状態変化があった時、家族の状況が変わった時、事業所の体制に変更が生じた時等に、終末期における対応について繰り返し話し合いをしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族が安心して任せられるよう、職員が不安感を持たず自信を持っていける様に勉強会の機会をもち職員のスキルアップに取り組んでいます。		ご家族、医療機関との情報交換を密にして、万全な体制にしていきたい。 ご家族が安心して任せられるよう、職員が不安感を持たず自信を持っていける様にしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人も交えご家族と十分に話し合い、情報交換を行ない医療機関の紹介、調整などをして、スムーズに新しい場所での生活が始められるよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送りをする時は、離れた所でご入居者に聞こえないような声でするようにしています。個人情報を書かれた書類やメモを捨てる時には必ずシュレッダーにかけるよう徹底しています。	個人情報に触れる話は大きな声で話したり、来訪者の耳に入るような所で申し送りをしないように徹底しています。また、一日の振り返りチェック項目に基いてノートに書くようにしています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご入居者にあつた声掛けや対応を心掛けるようにしています。意思表示が困難な方でも表情などを読み取り、本人が決める場面を作るようにしています。	ご入居者に希望・要望を気兼ねなく話して頂けるように努めていきたい。また、理解するのが困難な時には、じっくり話を聞き何を望んでいるのか思いをくみ取り、自己決定できるよう支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活のリズムが取れる様、毎日の日課について声掛け、誘導は行ないますが、無理強いせずご入居者の体調、気分を尊重するようにしています。	ご入居者の気持ちに伝えられるよう職員のペースにならず、ご入居者本人のペースに合わせるように心掛けています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出する時等、職員と一緒に着たい服を選んだりしています。毎月の訪問美容サービスを利用したり、近所の美容室を利用したりと、ご入居者の希望に対応しています。	外出する時だけではなく普段から身だしなみに気をつける気持ちを失わないように支援していきたい。また、長い間の外出がキツイ方にも工夫して楽しみを持って頂きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事をし、必要な介助をしながら楽しい雰囲気を作るようにしています。誕生日にはその方の好物のメニューで 皆でお祝いするようにしています。	食事の準備、出来る方にはお手伝いして頂いて、楽しく会話のある食事作りをしていきたい。時々、外食を取り入れる等して、楽しみを持って頂くようにしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買物に行きたいと希望される方は、お散歩を兼ねて近くのコンビニへ買物に行っています。自分の目で見て好きな物を選び購入されており、とても楽しそうです。	病気の為、制限がある方々がいらっしゃるの、その方々の配慮も忘れないようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗を減らすため、排泄チェック表を見ながら間隔を把握し、トイレ誘導を行なっています。ご入居者からのサインも見逃さないように観察し、職員間での情報共有に努めています。		失敗してしまった時には周囲の方には気づかれないように配慮して、速やかに対応し、気分の落ち込み等が見られないような声掛けをしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな予定を組んで行なっています。入浴時には本人に希望確認し、入浴しています。予定日以外でも希望があれば応じるようにしています。羞恥心を考慮し、一人ずつ入浴し同性介助を行なっています。		入浴が好きでない方や拒否される方に対しても声掛けを工夫したり、二人介助で対応するなど速やかで安全な入浴介助を心掛けている。また、楽しみを持って頂けるような工夫をしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の覚醒を促し、一日の生活のリズムを整え、夜間の安眠を促しています。一人一人の体調や希望等を考慮し、お昼寝をしたりして休息できるようにしています。		一人一人の生活リズムを整えられるよう、生活習慣や活動を検討して支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の出来る事や得意分野を見出し、その力を十分に発揮できるよう支援しています。そして「出来た事」「やってみよう」と努力した事への喜びを分かち合い、感謝の気持ちを伝えるようにしています。		ご入居者一人一人が楽しみを持ち、自発的に、積極的に取り組んで頂けるような充実した毎日になりたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を所持している方もおられ、散歩や買物時に持参し、お金を使えるようにしています。財布にお金が入っていると安心し、落ち着かれる方もいます。		ご自分でお金を持たれていない方にも買物時にはご自分で支払いをして頂けるような支援をしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺への散歩や近所のお店への買い物へ行くなど、ご入居者の希望をお聞きし、気持ちを察して対応するようにしています。すぐ近くまでの外出であっても気分転換になり、季節を感じていただける機会になるので積極的に勧めていきたい。		ご入居者の希望をお聞きしたり、習慣や現在の関心事など情報収集し、それぞれに合った地域との繋がりを提供したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠くへの外出の時には、事前に計画を立てて職員の調整を図り実施しています。		ご入居者の希望や願いが実現できるようにご家族の方と相談、協力しながら支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者の希望に応じ、電話を使用できるようにしています。電話機もコードレスを使用し、居室でお話できるようにしています。手紙が届いた際にはご本人に渡し、必要に応じて代読しています。		発語が少ない方等に電話が掛かってきた時には相手の方とお話ができるように援助していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人、なじみの方が気軽にいつでも面会に来られるような雰囲気作りを心掛けています。他のご入居者に気兼ねなく過ごして頂けるよう居心地の良い空間作りを心掛けています。		笑顔でご家族やなじみの方を迎えるようにし、いつでも気軽に訪問していただきたいと思っています。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ委員会を発足し委員会で話し合った事をフロアミーティング時に報告したり、話し合ったりして身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		今後も勉強会や研修などに参加して、身体拘束について常に考えていけるように個々の能力の向上につなげていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご家族の要望もあり、エレベーターは暗証番号になっています。暗証番号がなくても安心して頂けるように、鏡を設置して死角を作らないようにし、実践を行なう中で安心感を得て頂けるように取り組んでいます。	○	安全策の為未だに解除出来ていませんが、ご家族の同意、安心を得られる様に取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	事前に対応策がとれるよう、ご入居者個別の落ち着かなくなる時間帯、傾向、原因を把握し、見守りなどして安全に配慮しています。職員同士、連携を取りリビングに職員が不在にならないようにしています。		ご入居者が落ち着かなくなる理由を職員で探り、話し合っ て安全確保に努めていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤、薬等の注意の必要な物は保管場所を決めて、職員が管理をしています。ご自分できちんと使用・管理が出来る物については自由に使えるようにしています。		一人一人の状況に応じて使用して頂くようにこれからも取り組んでいきたい。又、難しいと思われる方にも職員がそばについて、生活リハビリの一環として使用できるように取り組んでいきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各種マニュアルを作成して確認しています。夜間など急変、緊急時には医師・看護師と24時間連絡、対応がとれるようにしています。		事故が発生したら毎回報告書を作成し、再発防止に努めています。また、是正処置の効果の確認も必ず行なうようにしています。今後も予防処置案作成に取り組み、予測される事故を未然に防げるように努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会や研修で知識を深めたり、マニュアルを作成しています。また、急変・緊急時のマニュアルも作成しており、医師・看護師と24時間連絡、対応がとれるように備えています。		今後も定期的な勉強会で応急手当や救命講習を繰り返し行ない、職員が全員対応できるように取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成しています。年2回の避難訓練を実施し、初期消火・通報・避難誘導の周知・徹底に取り組んでいます。また、地域での消防訓練にも参加し、地域の方々の協力を得られる様にしています。運営推進会議の場でも協力を呼びかけています。		火災時には地域の方々と協同して消火活動を行なうようにしています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に一人一人に起こりうるリスクについて近況報告と併せて行なっています。その際、ご家族の意向も伺い、対応策を話し合っています。		個別に起こり得るリスクをきちんと把握し、定期的な見直しを行なうようにしています。ご家族にも対応策を説明し、話し合うようにしています。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りや記録を読み、その日のバイタルを確認しています。体調の変化が見られたり、いつもと様子が違う時などはすぐにバイタル測定し、状況によっては看護師に報告しています。		体調や些細な異変を見逃さないように観察を徹底し、早期発見につなげる事が出来るように取り組んでいます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者一人一人の薬のマニュアルを作成し、用法や副作用について把握できるようにしています。薬の変更、臨時薬があった場合は申し送りノートや日誌に確実に記載しておくようにしています。		服薬時は必ず職員同士で名前、日付、薬の数量などを確認し、誤薬を防ぐように取り組んでいます。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便コントロールがうまくいこう野菜や水分の摂取、腹部マッサージや運動を促しています。それでも排便が何日もない場合には下剤を服用して頂いています。また自然排便が困難な方に対しては、定期的の下剤を服用して頂いています。		なるべく薬に頼らず、自然排便が行なえるよう繊維質の多い食材を使用した献立の工夫や適度な運動を働きかけるように取り組んでいます。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをして見守り、自力で出来ない方には介助を行なっています。毎日、就寝前には義歯の洗浄消毒を行っています。		口腔ケアの研修や勉強会に参加して、知識や技術を身に付け重要性を理解していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量が一日を通して足りていない方にはその都度説明して、出来るだけたくさん摂取して頂くようにしています。食事の摂取量が少ない方には調理法や盛り付けなど工夫して提供するようにしています。		今後も栄養のバランスを考えた献立を作成して食事提供をしていきたいと思います。摂取量が少ない方には個別に対応を考え、摂取していただける食材やメニュー、調理法などで工夫していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各種マニュアルを作成して、確認できるようにしており、定期的な勉強会を行なっています。また、インフルエンザの予防接種を受け、ノロウイルス対策として、塩素消毒やペーパータオルを使用するなど取り組んでいます。		今後も事業所内で起こり得る感染症について全職員が研修や勉強会で学習し、予防・対策に取り組んでいきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫・冷凍庫の残りの食材の期限を確認し、食中毒予防を徹底しています。まな板や包丁等の調理器具や布巾などの使用後は清潔保持に努めています。		食中毒予防のマニュアルを作成し、それに沿って対応しています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を飾ったり、季節に合った置き物を飾ったりとご入居者や近隣の方たちにも楽しみを持って頂けるように取り組んでいます。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらう為に、節分に豆まきをしたり、冬至にゆず湯に入ったり、節句にはおやつに柏餅を提供するなど季節感を取り入れる工夫をしています。また、ご入居者の誕生日には皆でお祝いをするようにしています。		今後もご入居者一人ひとりが居心地の良い場所があるように工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご入居者同士、隣に座ったりして会話できるようにしています。フロアの飾りも季節感を感じて頂けるようなディスプレイを心掛けています。	○	リビングの飾りなどご入居者の方々と一緒にアイデアを出したり、作成するなどして取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	ご本人の使い慣れた物、好みの物を持ってきて使用していま す。テレビや鏡台、仏壇等持ってこられ、自宅と変わらないよ うな居心地で過ごせるようにしています。		使い慣れた物を持ってこられなかった方や欲しい物があつ た場合は、ご家族と相談し、持ってきて頂いたり、買い物に 行き、購入するなどの対応をしています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	各居室、トイレは換気扇をつけて対応し、定期的にトイレの窓 や居室の窓、リビングの窓を開けて空気の入替え、換気を行 なっています。		個人で感じる温度に差がある為、衣類の調節や冷暖房の 調節で個人の温度調節を行なっています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	居室内の家具の配置や段差など危険で事故につながる要 因がないかチェックし、歩行時の妨げにならないように注意 し、環境整備を行なっています。		ご入居者の身体機能の変化等を考慮して環境整備や改 善に努め、安全を確保していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	居室入口に写真や名札を付けたり、トイレや風呂場に分かり やすいように表示して、間違ったり、混乱しないようにしてい ます。		混乱や失敗を招くような環境があれば、それに対して速や かに補修するなどしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダで花を植え、育てたりして季節感を感じて頂いたり、 気分転換を図って頂いたりしています。	○	他のご入居者と協同し、野菜を育てたりし達成感や喜びを 感じて頂き、楽しみを持って頂ければと思います。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほほ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 訪問診療で医師の往診を受け、心配な事などすぐに相談できています。必要時には検査をする等速やかな対応が実現されています。